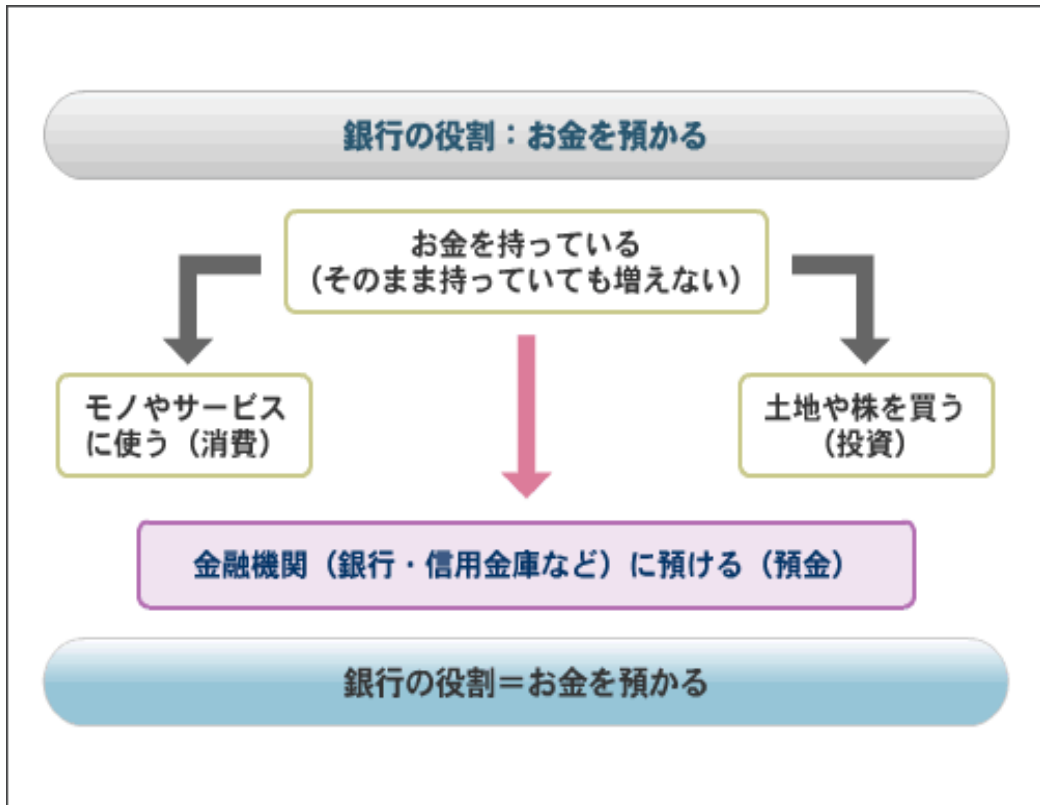


「銀行の役割」 目次

- 1.銀行の役割:お金を預かる
- 2.銀行の役割:お金を貸す
- 3.金融機関は、お金を借りたい人と貸したい人の仲介役
- 4.銀行の役割:お金を送る
- 5.金融機関を利用してお金を送る
- 6.日本銀行の役割:金融機関同士のお金のやり取りをとりもつ
- 7.日本銀行の役割:金融機関の経営実態をチェックする
- 8.日本銀行の役割:お金の流れを守る
- 9.金融機関の役割と日本銀行の仕事
- 10.まとめ:日本銀行の仕事

1.銀行の役割:お金を預かる



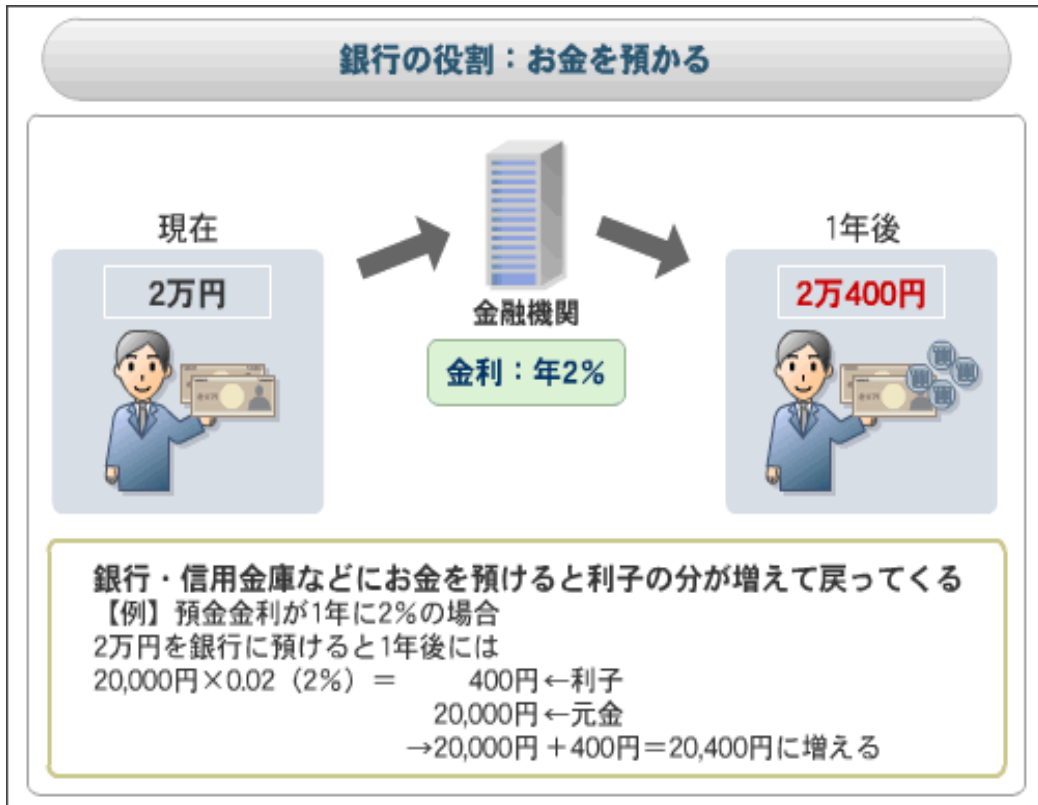
銀行の主な役割の一つは、お金を預かることです。みなさんから見ても、銀行はお金を預ける場所という印象が強いかもしれません。

お金の使い方は、大きく二つに分けられます。一つは、欲しいモノを買ったり、サービスを受けたりする使い方、これを「消費」といいます。

また、実際に使うつもりはなくても、いずれは値上がりすると見込んだ土地や株などを買うこともあります。このように、将来、利益を得るためにお金を出すことを「投資」といいます。

ところが、さしあたってお金の使い道が決まっていない場合、たいていの人は銀行や信用金庫などの金融機関に預けます。これを「預金」といいます。

1.銀行の役割:お金を預かる

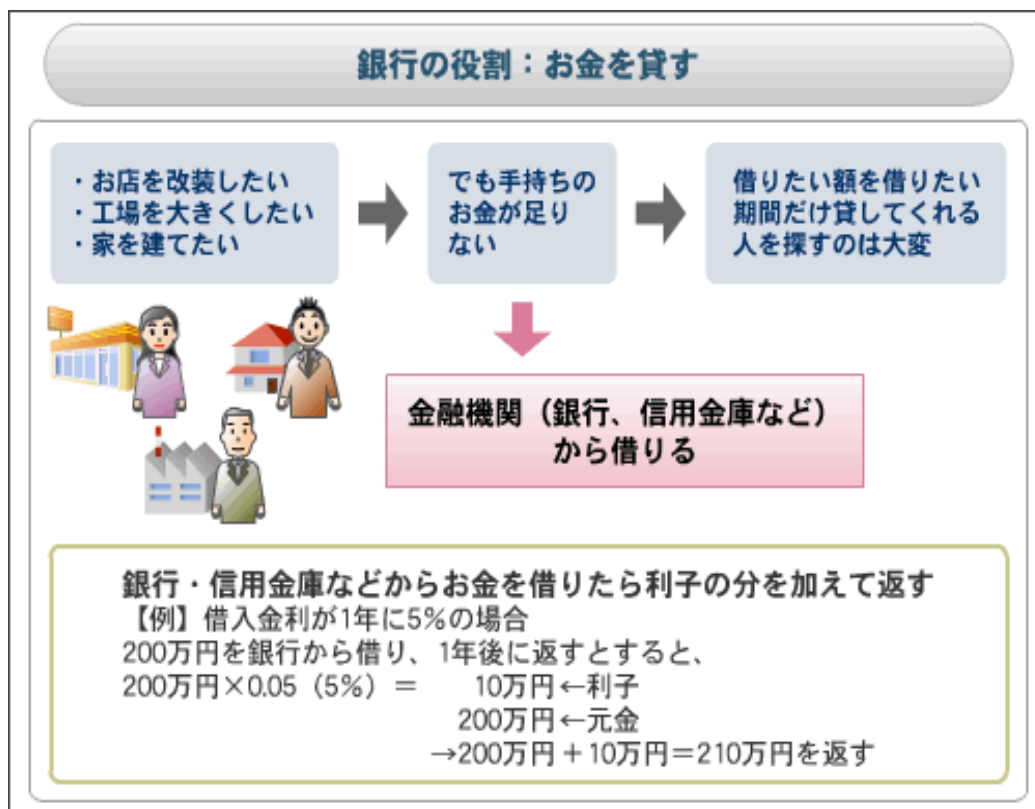


では、お金を手元に置いておかずに、銀行に預けるのはなぜでしょうか。盗まれる危険を避けるためもありますが、銀行に預けたお金には「利子」がつくというのもその理由の1つです。利子とは、お金を貸し借りするときの値段のようなものです。

利子がつく割合を「金利」といいますが、預金金利が1年に2%の場合、2万円を銀行に預けると、その2%、すなわち400円の利子がつきます。もとの2万円は、1年後には2万400円になります。

お金を自分の手元に持っているとき、もとの金額のままですが、銀行に預ければ、約束の期間の後に利子の分が増えて戻ってくるのです。

2.銀行の役割:お金を貸す



銀行には、お金を預かる以外にも重要な役割があります。その一つが、お金を貸すという仕事です。

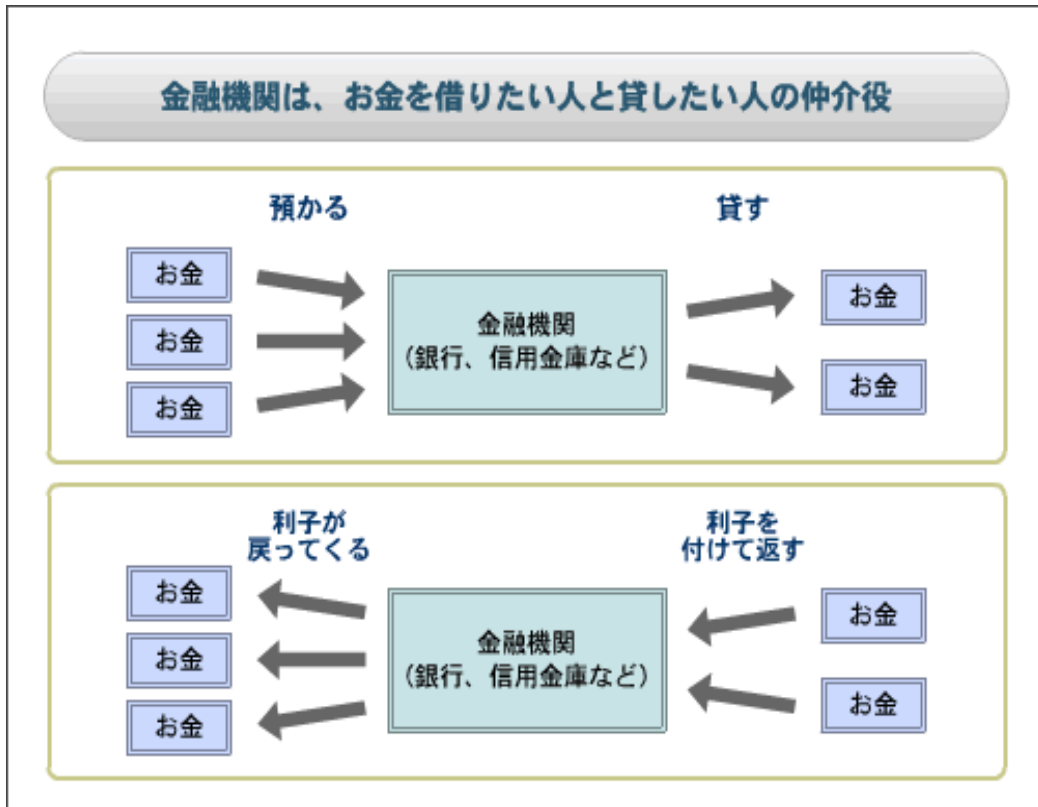
例えば、お店や工場を経営している人が「店を改装したい」「工場を大きく広げたい」と考えた場合、お金がなければ計画は実現できません。あるいは、家を建てたいと思っても、やはりたくさんのお金が必要です。

手持ちのお金では足りないという場合、だれか貸してくれる人を見つけなければなりません。それは大変難しいことです。ふつう、借りる金額が大きくなるほど、返すのにかかる期間は長くなりますが、多額のお金を長期間にわたって貸してくれる人は、めったにいないからです。

大きな額のお金を借りるときは、お金を貸してくれる人を直接探すのではなく、銀行や信用金庫などの金融機関から借りるのが一般的です。金融機関からお金を借りるときは、借りたもとのお金に利子を加えて返す約束になっています。

例えば、200万円を銀行から借りるとします。借りるときの金利が1年に5%の場合、200万円の5%、すなわち10万円の利子がつきます。200万円のお金を1年後に返すすると、もとのお金に10万円の利子を加え、全部で210万円を返すことになるのです。

3.金融機関は、お金を借りたい人と貸したい人の仲介役



お金を預かることと貸すことは、深く結びついています。

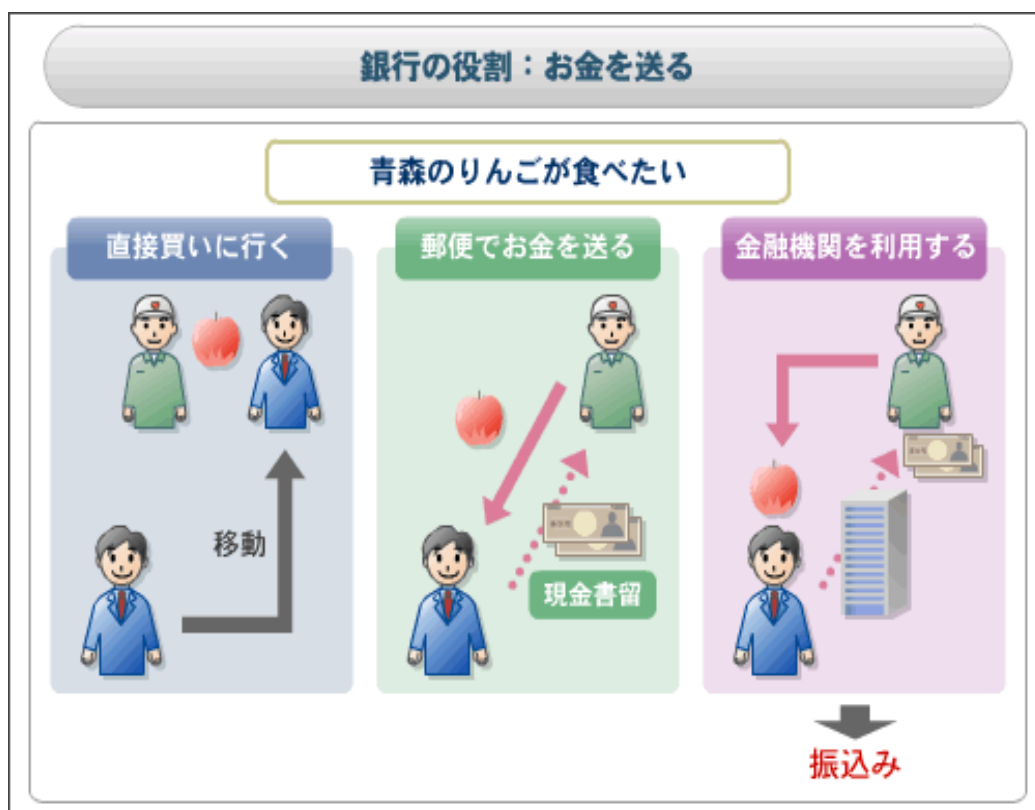
銀行などの金融機関が貸すお金は、だれかから預かっているお金です。つまり、お金を預けている人は、金融機関を通して、別の人にお金を貸していることになります。お金を借りた人は、利子をつけて金融機関に借りたお金を返しますし、金融機関にお金を預けた人には、利子がついてお金が戻ってきます。両者の間に立つ金融機関は、いわば貸し借りの仲介役です。

貸す人と借りる人の仲介役の仕事は、少ない額のお金を束ねて、たくさん借りたい人に貸したり、預かる期間が短いお金をつなぎあわせて、長期にわたって貸すといったことです。

また、金融機関がお金を貸すときには、貸したお金がきちんと返ってくるように、信用できる相手かどうかを調べます。例えば、ある会社が工場を建てるお金を借りたくても、金融機関はその会社の経営の状態を調べ、貸したお金をきちんと返せると判断したときにしか貸しません。この判断は大変難しく、個人でお金を貸す場合には、なかなかできないことです。

このように、金融機関は、今すぐには使わないお金を持っている人からお金を借りたい人へ、希望する金額と期間に応じてお金がスムーズに流れるよう、貸し借りの仲介をしています。そしてお金を貸すときには、信用の判断という重要な仕事を同時に行っているのです。

4.銀行の役割:お金を送る



銀行には、ある人が別の人へお金を送りたいときに、その仲立ちをするという役割もあります。

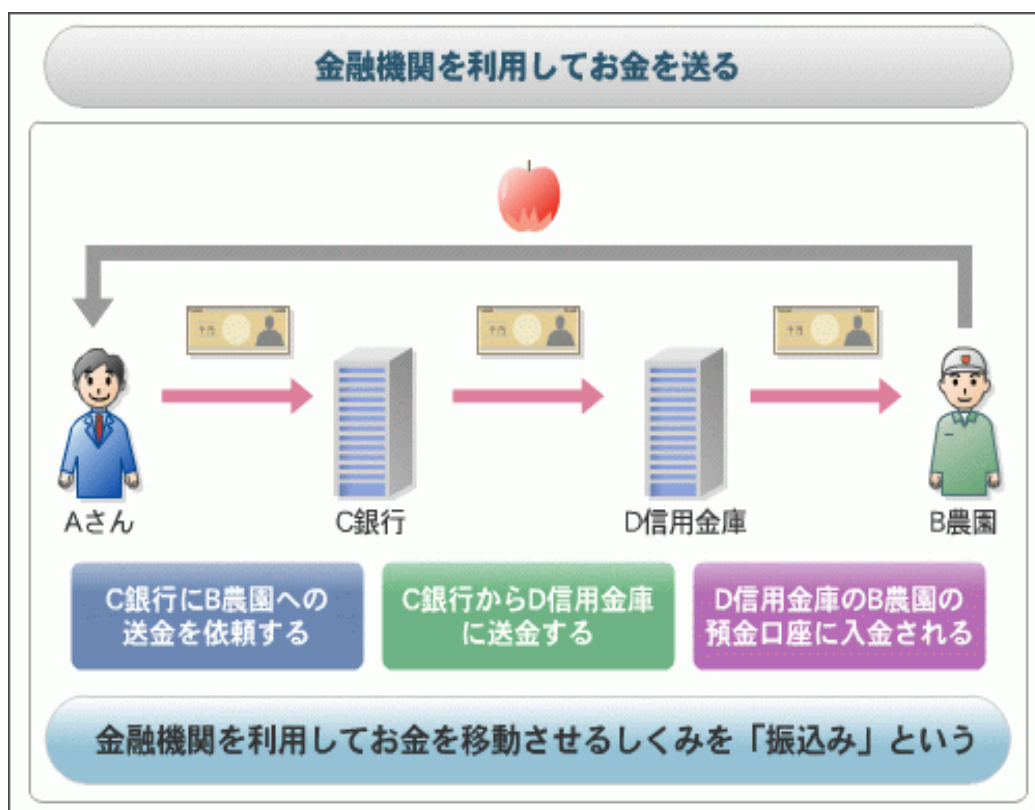
例えば、東京に住んでいる人が、青森のリンゴを食べたいと思ったら、どうするでしょうか。なかには、自分で青森までリンゴを買いに出かける人もいるかもしれませんが、ふつうは、それだけのために、高い電車賃や飛行機代を使ったり、長い時間をかけたりはしないものです。青森の農園に連絡をとって、リンゴを東京まで送ってもらうようお願いし、その分の代金を送るという方法をとるでしょう。

お金の送り方には、いくつかの方法があります。一つは、リンゴを買った人が、現金を専用の封筒に入れて郵便局の窓口を持って行き、現金書留で青森の農園に送ってもらうという方法です。この方法では、東京から青森まで、お金がそのまま郵便で運ばれます。

一方、現金を直接運ぶことなく、銀行などの金融機関を利用して送る方法もあります。東京でリンゴを買った人が、近くの銀行に頼んで、青森の農園にお金を送ってもらうのです。金融機関を利用したお金の移動を、「振込み」といいます。

このように金融機関には、私たちに代わって、遠く離れた人にお金を移動する役割があります。

5. 金融機関を利用してお金を送る



金融機関を利用してお金を送るときの例をみましょう。

AさんがB農園からリンゴを千円分送ってもらったとしましょう。まず、Aさんは千円を持って、近くのC銀行に行きます。そして、銀行の窓口の人に、B農園へお金を送ってほしいとお願いします。

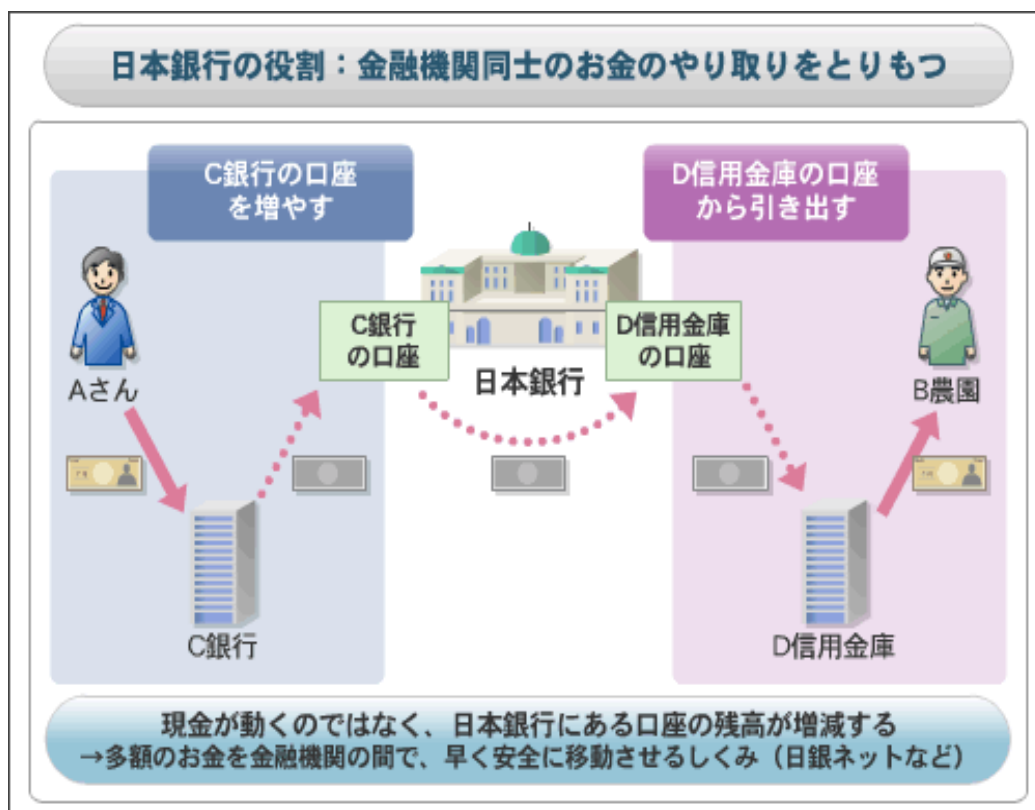
その場合、Aさんが持ち込んだお金を、C銀行の人がB農園まで直接届けに行くわけではありません。B農園が預金口座を持っているD信用金庫にお金を送ります。

D信用金庫は、C銀行から送られてきた千円を、B農園の預金口座に入れます。B農園の人は、D信用金庫に行って、そのお金を預金口座からおろせば、リンゴの代金を現金として手にすることができるのです。これが、金融機関を利用してお金を移動させる「振込み」というしくみです。

C銀行とD信用金庫のように、お金を送る側が利用する金融機関と、受け取る側の金融機関は、別々でもかまいません。また、東京と青森のように遠く離れていても、この「振込み」という方法を使えば、お金の移動はスムーズに行われます。

では、C銀行からD信用金庫へ、実際にはどのような形でお金が送られているのでしょうか。

6. 日本銀行の役割：金融機関同士のお金のやり取りをとりもつ



お金を送ってほしいと頼まれた金融機関と、お金を送る相手の口座がある金融機関が異なる場合の、お金の動き方を説明しましょう。

Aさんがリンゴの代金の千円を払うために利用したC銀行と、B農園が口座を持っているD信用金庫は、お金を直接やりとりするわけではありません。日本銀行がその仲介をしています。

金融機関同士のお金のやりとりには、それぞれの金融機関が日本銀行に持っている預金口座が使われます。

まず、C銀行は、Aさんから振込みの依頼があった千円を日本銀行にあるC銀行の預金口座に移します。日本銀行は、C銀行の口座にある千円を、D信用金庫の預金口座へ移します。D信用金庫は、日本銀行にあるD信用金庫の預金口座から千円を、B農園の預金口座に移します。

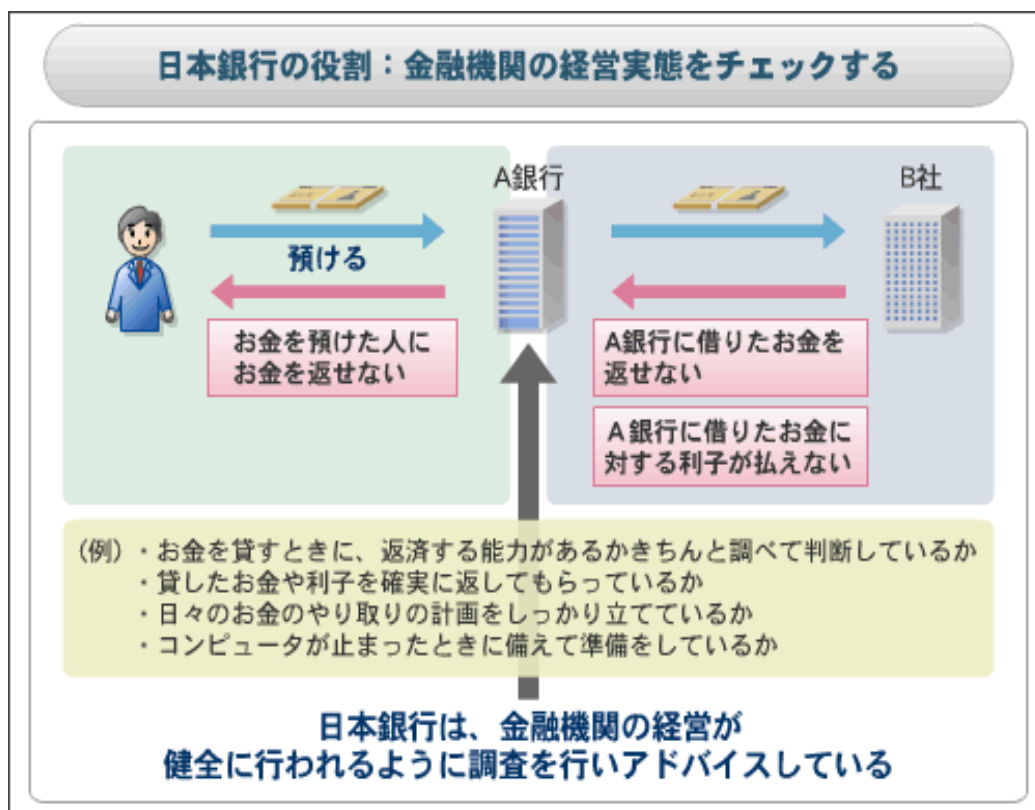
日本銀行にある金融機関の口座の間でお金を移動させるとき、現金は動きません。ネットワークを通じて金融機関の口座の間でお金を移すためのデータが日本銀行に届き、これに基づいて日本銀行がそれぞれの金融機関の預金口座の残高を増やしたり減らしたりして、お金を移動しています。

この方法を使えば、異なる金融機関の間で、直接現金を受払いすることなくお金を早く安全に移動できます。

実際には振込みを行うたびではなく、1日分の振込み依頼による金融機関のお金のやり取りをまとめて、その差額分のお金が、日本銀行にあるそれぞれの金融機関の預金口座の間を移動します。このオンラインネットワークのことを「日銀ネット」といいます。

金融機関の間のお金のやり取りが円滑で安定的に行えるようにすることは、日本銀行の重要な仕事のひとつです。

7. 日本銀行の役割：金融機関の経営実態をチェックする



金融機関の経営が健全に行われるようにうながす仕事も、日本銀行の大切な役割です。

例えば、A銀行がお金を貸したBという会社が、約束どおりにお金を返せなくなったら、どうなるでしょうか。B社が借りたお金は、いろいろな人がA銀行に預けたお金ですので、きちんと返してもらわないと困ります。約束どおりに返せない会社がたくさんあると、A銀行は、お金を預かった人に、利子を付けて返すという約束を果たせなくなります。

調査した上で貸出しを行っても約束どおりに返済できないということはありますが、そのような相手に対する貸出しが膨らむと、お金の流れが滞り金融機関の経営は危なくなります。お金を貸すときに、相手にお金を返す力が本当にあるか、その信用を判断するのが大切なのは、こうした理由からです。

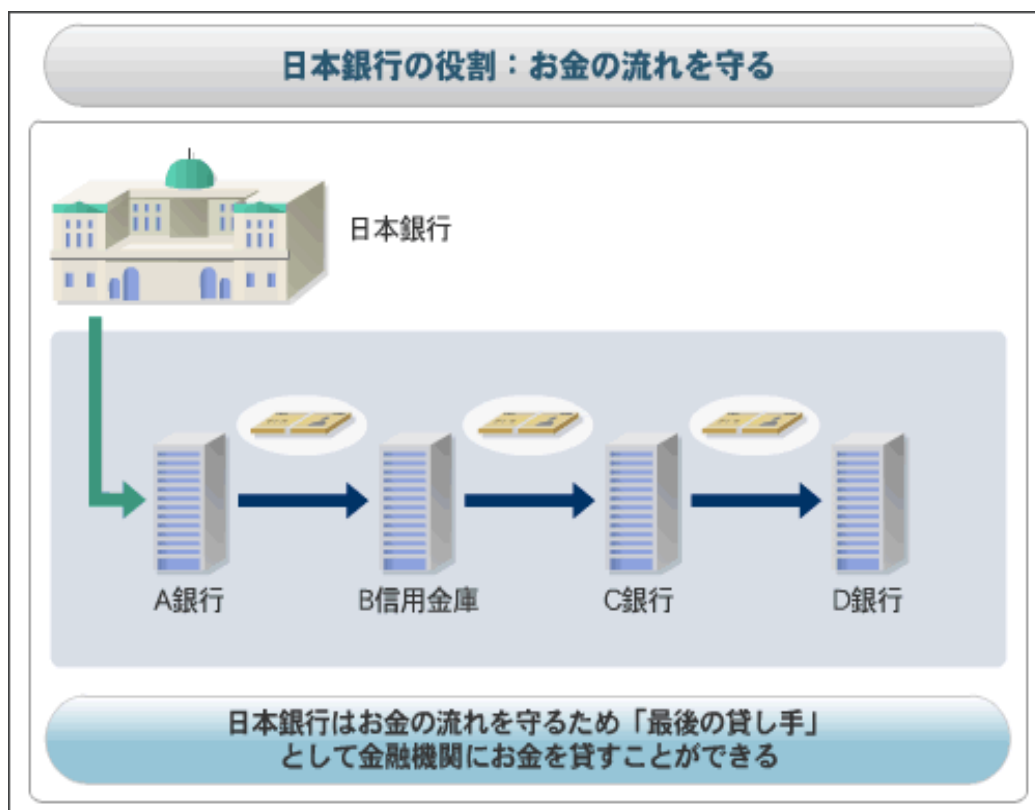
また、毎日の送金や支払いのために、金融機関を通じてたくさんのお金がやりとりされていますが、金融機関の経営が健全に行われないと、こうしたお金のやり取りが円滑に行われなくなる恐れがあります。

このような事態を防ぐために、日本銀行は例えば、

- ・お金を貸すときに、返す能力がある相手かどうかをきちんと調べて判断しているか。
- ・貸したお金やその利子を確実に返してもらっているか。
- ・日々のお金のやり取りの計画をしっかりと立てているか。
- ・大地震などでコンピュータが止まってしまったときに備えて準備しているか。

といったポイントについて、金融機関の経営実態を調査し、必要なアドバイスを行っています。

8. 日本銀行の役割: お金の流れを守る



日本銀行は、金融機関の間のお金のやり取りが円滑で安定的に行えるネットワークを運営して、皆さんが金融機関を通してお金を受け取ったり支払ったりするしくみを支えています。お金の流れを守るために次のような役目もあります。

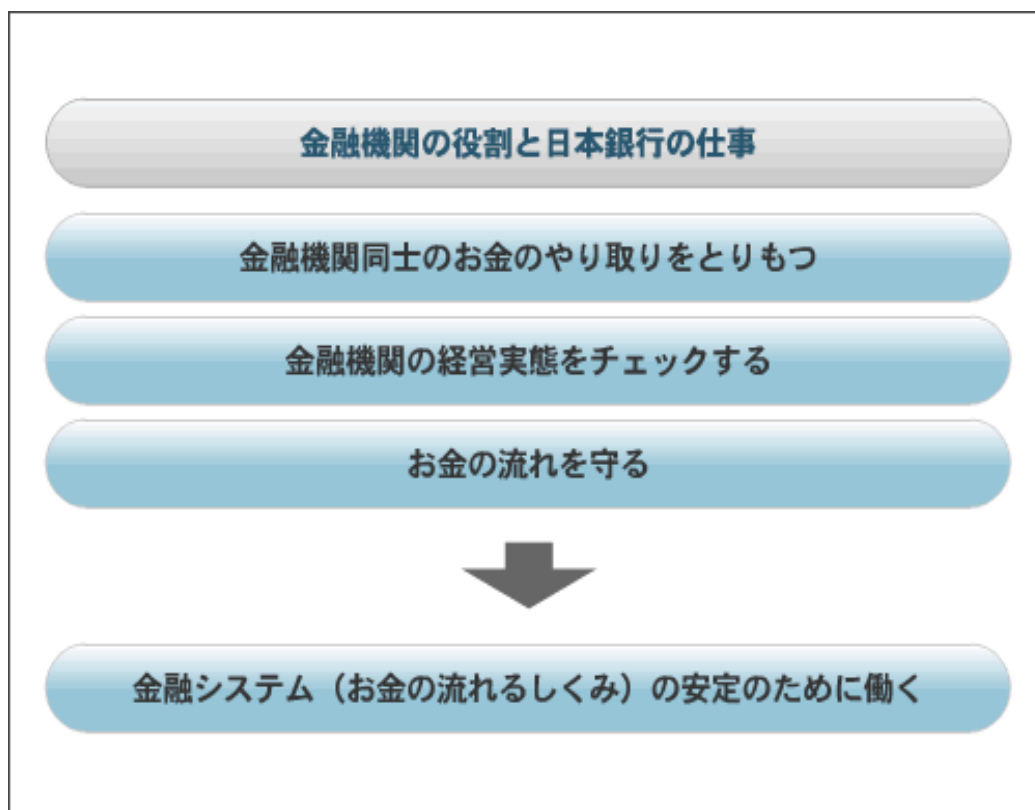
例えば、A銀行からB信用金庫に、1億円を支払う必要があるとします。B信用金庫は、そのお金が入ってきたら、C銀行に1億円を支払うつもりでいます。C銀行も、B信用金庫からのお金で、D銀行に支払いを計画しています。

ところが、A銀行のお金が足りなくなり、B信用金庫に1億円を支払えなくなったら、どうなるでしょうか。B信用金庫はC銀行へお金を支払えなくなり、その結果、C銀行もD銀行にお金を支払えなくなってしまうかもしれません。お金は、金融機関の間を絡み合って流れているため、一箇所滞ると多くの金融機関に悪影響が及びます。

そういうときは、日本銀行が手助けします。A銀行が一時的に手元の現金が足りず、約束した1億円を支払えないときには、日本銀行以外からはお金が借りられないなど、一定の条件を満たす場合に、日本銀行がA銀行に1億円を貸すことがあります。そうすることで、B信用金庫、C銀行、D銀行への悪影響を防ぐことができます。

このようにお金の流れを守るために、金融機関にお金を貸す日本銀行は、「最後の貸し手」とよばれています。日本銀行が「最後の貸し手」として行動するのは、個別の金融機関を助けるのではなく、お金の流れを守ることを目的としています。

9.金融機関の役割と日本銀行の仕事



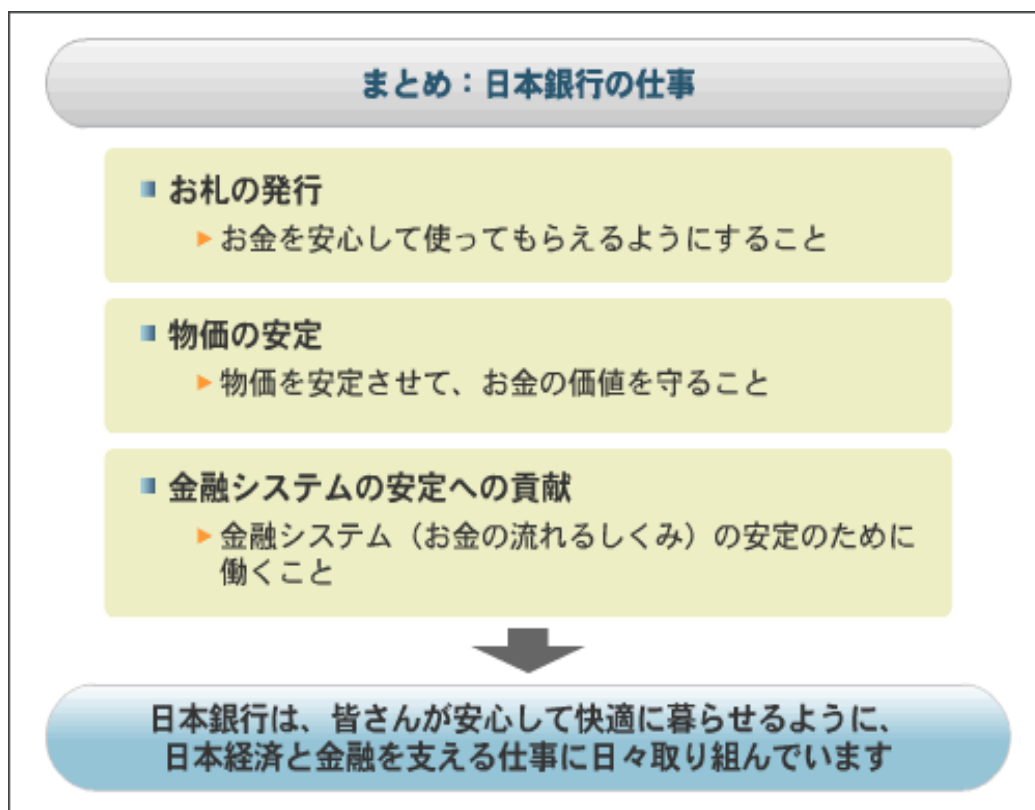
日本銀行が金融機関に対して行っている仕事を整理しましょう。

まず、日本銀行には、金融機関同士のお金のやり取りのために、金融機関の預金口座がそれぞれ設けられています。ある金融機関が別の金融機関にお金を送るときは、現金を運ぶのではなく、ネットワークを通じてデータを送り、日本銀行にある口座の残高を増やしたり減らしたりして処理をします。このようなしくみがあることで、金融機関は手早く安全にお金のやり取りを完了することができます。日本銀行は、金融機関に預金口座を提供することで、お金を送る・受け取る、というしくみを支えています。

また、日本銀行は、金融機関の経営実態を調べ、お金を預かったり、貸したり、送ったりするサービスをきちんと提供することができるか、チェックをして、健全な経営を促しています。

さらに、もし、金融機関が支払うお金が足りなくなり、他の金融機関に悪影響を及ぼす可能性があるときには、「最後の貸し手」として、日本銀行はその金融機関にお金を貸すことがあります。それは、あくまで一時的にお金が不足した場合など一定の条件を満たす場合に限られますが、他の金融機関への悪影響を防ぐことで、お金の流れを守っているのです。

10.まとめ：日本銀行の仕事



ここで、「お金」「モノの値段」「銀行の役割」という三つの話を振りかえって、日本銀行の仕事をまとめてみましょう。

日本銀行の第1の役割は、お札の発行です。安心してお金を使ってもらえるように、日本銀行はにせ札を防止する高い技術と厳しい管理のもとで、お札の発行を行っています。

第2の役割は、モノの値段、つまり物価を安定させて、お金の価値を守ることです。1万円で買えるモノが昨日と今日で大きく変わってしまったら、お金の価値が定まらず、だれもお金を信用できなくなります。私たちが安心してお金を使えるように、日本銀行は物価の安定に努め、お金の価値を守っているのです。

第3の役割は、金融機関同士のお金のやり取りが円滑で安定的に働くしくみを守ることです。日本銀行は、金融機関に預金口座や金融機関同士の取引に使うネットワークを提供することで、お金を送る・受け取る、というしくみを提供しているほか、金融機関の経営実態をチェックしたり、いざというときには「最後の貸し手」となり金融機関を結ぶお金の流れを守ったりしています。

日本銀行は、皆さんが安心して快適に暮らせるように、日本経済と金融を支えるこのような仕事に、日々取り組んでいます。